愛知工業大学研究報告
第 51 号　平成 28 年

高等教育における SNS 活用に関する文献レビューと取組事例の報告

Review and a Case Study of SNS Use for Higher Educations

杉浦　晶子†，杉浦　伸††
Akiko Sugiura, Shin Sugiura

Abstract　Recently, most of university students have mobile phone, smart phone and use them frequently. Because smart phone are very convenient, students might actually do hasty or careless assignment. These attitude might inhibit the growth of academic achievement. On the other hand, SNS is used as a learning tool to allow students to engage in discussion and ask questions in their class. This paper reviews the study of SNS use for higher educations, and describes our experience.

１．はじめに

スマートフォン等の情報通信機器は、今や大学生の日常生活に深く浸透している。スマートフォンはいつでもどこでも利用できるため、授業中に使用したり、課題を安易にインターネット検索だけで済ませようとしたり、インターネット掲示板（Yahoo!知恵袋等）に質問したりするなど、粘り強く主体的に学習する力の育成を阻害する可能性がある。一方で、電子メールやソーシャルメディアの活用により、学生と教員とのコミュニケーションの障壁を下げ、授業内容の関連トピックの紹介を通じて発展的学習につなげられる可能性がある。本論文では、教育目的の SNS 活用に関する文献レビューと、2015 年度に筆者らが行った授業実施事例の報告を行い、現状把握と今後の課題点を議論することを目的とする。

２．本研究の背景

２・１　ソーシャルメディアの普及

O'Reilly[1] の Web2.0 という言葉に代表されるように、2000 年代中盤から、ソーシャルメディアの登場によってインターネットユーザーが情報の単なる受け手としてだけでなく、誰もがその気になれば情報の発信者や編集者として参加してウェブ上に新たな集合知を構築できる時代になった。ソーシャルメディアとは、インターネットを介して誰でも手軽に情報を発信し、相互に意思疎通ができるサービスである。代表的なものは、ブログ（アメーバブログやココログ等）、SNS（Social Networking Service：ソーシャルネットワーキングサービス、Twitter や Facebook 等）、動画共有サイト（YouTube やニコニコ動画等）、メッセージングアプリ（LINE 等）である。ソーシャルメディアは単なる情報入手の手段としてだけでなく、コミュニケーション手段として人と人とを繋げ、身近な不安や問題を解決することに役立つことが期待されている[2]。一方で、スマートフォンの普及やソーシャルメディアユーザー数の急速な拡大に伴い、投稿者の不用意な投稿がきっかけで、「炎上」といわれる投稿者への誹謗中傷やそれに伴うプライバシーの侵害等のトラブルが新聞・テレビ等のマス・メディアでも 2010 年頃から取り上げられて急増している（図 1）。ソーシャルメディアのうち、特に SNS は他人の投稿を知人と簡単に共有することができるように設計されていることから、投稿が瞬時に広範囲に「拡散」し、炎上の一因になっている[3]。

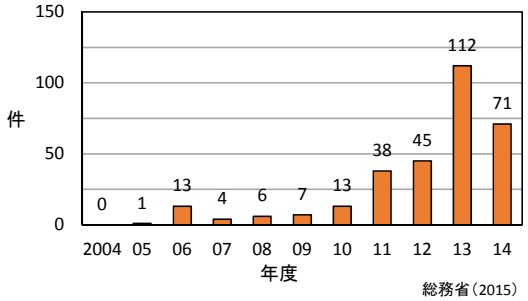


図 1　新聞記事データベース（日経テレコン）における SNS 炎上に関する記事件数の推移

†　愛知工業大学 非常勤講師（豊田市）、博士（経済学）、専門社会調査士
††　名城大学都市情報学部 准教授（可児市）

２・２　SNS のユーザー層と利用動機

総務省情報通信国際戦略局[4] によると、SNS は 20 歳代以下の若年層において利用率が高く、年齢が上がるほどに利用率が低下する傾向にある（図 2）。全年代で見た SNS 全般の利用目的は、「知人や家族とメッセージのやりとりや通話をするため」が最多であり、続いて、「様々な情報を収集するため」「暇つぶしのため」「自分の体験を友人や知人と共有するため」「友人や知人の暮らしぶりや考え方を知るため」などの理由が多い（図 3）。SNS で情報を拡散（Twitter のリツイート、Facebook のいいね！等）した経験がある人は SNS 利用者の 55.3%であるが、20 歳代以下のみではやや高くなり、61.2%の利用者が拡散の経験があると答えている。情報の拡散をする基準では、若年層ほど「内容に共感したかどうか」や「内容が面白いかどうか」が重視されている一方で、「情報の信憑性が高いかどうか」はそれほど重視されていない傾向にある（図 4）。

以上の事実から、特に若年層においては、ニュースを知るためのメディアというよりも、友人との共感を得るためのコミュニケーションツールとしての機能が重視されて SNS が利用されていることが分かる。

３．SNS の利用と教育に関する既往研究

３・１　SNS の利用状況と成績との関連性

既往研究では、SNS の利用と学業成績や授業への取り組みとの関連が検証されている。

HERI[5] のアメリカの大学 1 年生を対象としたアンケート調査分析によると、SNS を長時間使用する学生と短時間使用する学生とを比較すると、両者の学術活動の時間数（授業と研究室の活動への参加や学習時間数）の差はごくわずかだったことが確認されている。また、SNS を長時間使用する学生は、社交的だが学習に困難を感じている者がやや多い傾向にあることが確認されている。

このように、SNS を利用することが学習時間の短縮につながり、それが成績の低下に直結するとは断定できない。それに関連して、Jacobsen and Forste[6] の大学 1 年生を対象としたアンケート調査分析では、成績は学習時間との間に相関があり、SNS の利用時間と成績との間の見かけ上の相関が生じている可能性を考慮するため、学習時間の影響を回帰モデル内でコントロールして SNS の利用時間と成績との関係が分析されている。それによると、学習時間の影響を考慮しても、成績と SNS の利用時間との間には負の相関があることが確認されている。

以上の他にも SNS の利用と成績との間の関係を分析した既往研究は多数存在するが、現在のところ、SNS 利用と学業成績との間には負の相関があるという見方が大勢を占めている。

３・２　高等教育の現場における SNS の活用

これまで、大学等の高等教育の現場では、インターネットやパソコンの普及とともに、ウェブサイトや電子メール、LMS（Learning Management System：学習管理システム、Moodle や manaba 等）の活用によって、効果的な授業運営や教員・学生間のコミュニケーションの円滑化の取り組みがなされてきた。

近年では、それらに加えて、他者との交流の場を提供するという SNS の機能に着目し、教育に活用する研究が国内外を問わず多数行われるようになってきた。

Junco et al.[7] では、大学での事例研究を通じ、授業での Twitter の利用が学生エンゲージメント（Student Engagement：学術的経験に身体的・心理的に向ける努力

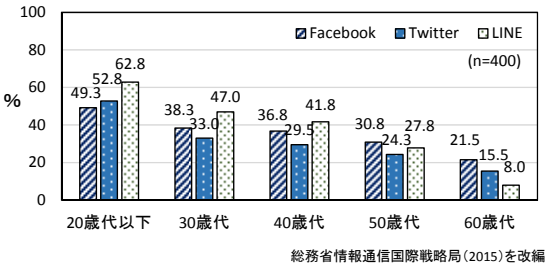


図 2　代表的な SNS の年代別利用率

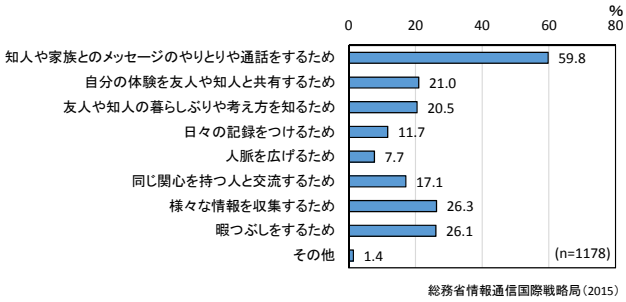


図 3　SNS の利用目的

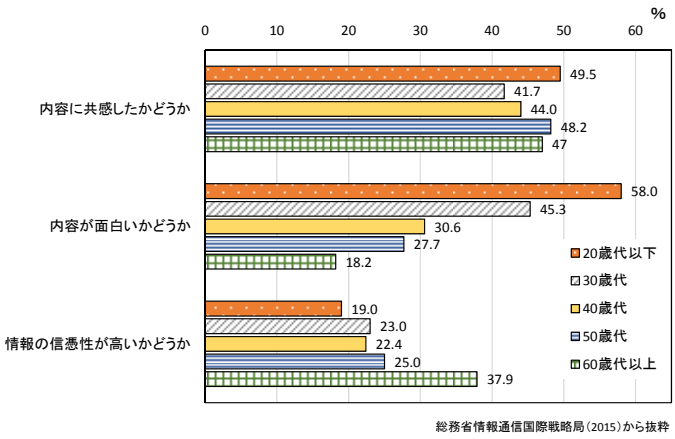


図 4　情報拡散の基準（年代別）

の大きさ）の向上に効果があることが確認されている。

Ross et al.[8] では、100 名規模の大人数の授業では、教員が受講生全員の名前を覚えることは難しく、対話の機会も限定されてしまうため、受講生が孤立感を感じやすい傾向にあることから、大学の大人数の授業において、Twitter で教員と学生とが議論する機会を設け、授業への参加意識を高める取り組みが行われた。アンケート分析の結果、Twitter での議論に積極的に参加した学生は、授業のコミュニティ（授業担当教員と受講生からなる交流の場）の仲間であったと感じられたことが確認されている。以上のように、既往研究では、SNS を授業に活用すると、受講生一人一人の孤立感を和らげて、学生エンゲージメントを高める可能性があることが確認されている。

国内の関連研究としては、OpenPNE 等を使用して大学で独自に導入した SNS の効果に関する事例研究や、外部の SNS を利用する取り組みも行われている。前者には、村上・岩崎[9]、入江[10]、佐々木・笹倉[11]、佐久本ら[12]、西出[13] 等がある。また、後者のうち Twitter を利用した事例研究には、村上[14]、金西ら[15] 等がある。

４．本研究における SNS 活用事例

４・１　取り組みのねらい

筆者らは、2015 年度に開講された一部の授業において、SNS（Twitter）とウェブサイトを利用する取り組みを行った。取り組みを行った大学では LMS や連絡用のポータルシステムが運用されているが、今回は敢えて外部のサービスを利用した。その理由は、既往研究から得られた知見に加えて、(i) 外部のサービスは学生が普段から身近に接しており関心を引きつけるきっかけになると期待されること、(ii) SNS を誤用してトラブルに巻き込まれないよう利用方法を学ぶきっかけになること、(iii) 卒業後に就職先の広報担当として組織の SNS 公式アカウントの管理を任される可能性もあるため、長期的視点から、授業で使用することに教育的意義が存在すると考えてのことである。本章では、その取り組みの事例報告を行う。

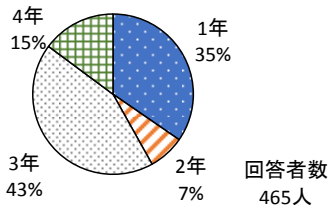


図 5　初回アンケート回答者の学年

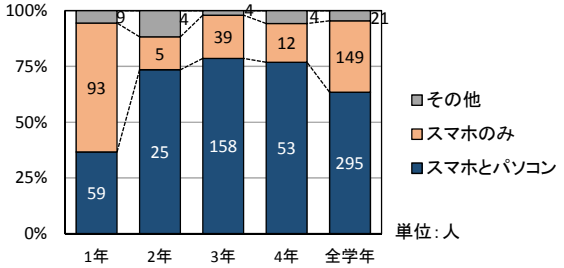


図 6　インターネット接続端末の保有状況

４・２　受講生のインターネット利用環境と普段の SNS 利用状況

取り組みの対象とした授業は、パソコンを利用した実習科目ではなかったため、実施にあたって受講生の利用環境に不都合がないかを確認するために、初回の授業でインターネット接続端末の保有状況や普段の SNS 利用状況を確認するアンケートを実施した。なお、インターネット接続環境については、学内に無線 LAN が整備されているため、全ての受講生が同じ状況にあると考えた。

図 5 に、初回アンケート回答者の学年を示す。図 6 は初回アンケート回答者のインターネット接続機器の保有状況である。1 年生はスマートフォンしか持っていない者が半数を占めているのに対し、2 年生以上は 75%がスマートフォンとパソコンの両方を持っていた。全学年では、何らかのインターネット接続端末を保有している者が全体の 95%を占めた。

図 7 は初回アンケートの時点での SNS の利用率である。利用率は、LINE、Twitter、Facebook の順に高く、SNS を使っていない者が 5%程度いた。

今後の Twitter の使い方に関する初回時点での主な意見は、積極的に活用してほしいという意見が 44%、否定的な意見が 18%であった。否定的な意見の内容は、Twitter を使ったことがない、あるいは使い慣れていないことによると思われるものが多く見られた（図 8）。

４・３　取り組みの経過

今回の取り組みでは、授業アカウントのフォロー、授業アカウントのツイート（投稿）へのリプライ（返信）やリツイート（転送）は義務化せずに受講生本人の意思

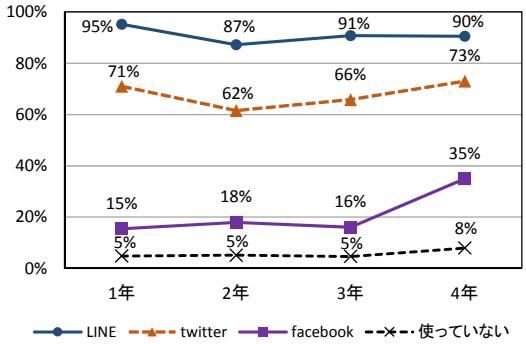
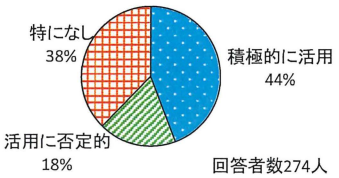


図 7　学年別の SNS 利用率



積極的に活用	・試験対策の実施 ・授業資料の提示 ・頻繁にアンケートを取ってほしい ・教員とリアルタイムでの質疑 ・ハッシュタグの使用 ・授業内容に関するコラムの掲載
活用に否定的	・使い慣れていないので重要な連絡は避けてほしい ・リプライが多く授業のツイートを見つけるのが困難 ・twitter アカウントを持っていない学生が大変 ・大学の既存のシステムの方が良い

図 8　今後の Twitter の使い方に関する意見

に任せる、試験日などの重要な情報の配信は大学のポータルシステムを使用する、という条件で使用した。さらに、フォロワーにならなくても授業アカウントの投稿が見られるように、授業アカウントは公開アカウントとした。また、受講生のプライバシーに配慮して、著者らの投稿へのリプライ（返信）は誰であるのかを名乗らずに行ってよいことにして、プライバシーの侵害や他人を傷つける発言をしないように注意喚起を行った。

授業アカウントでツイートした内容は、授業のポイントの復習や、授業内容に関連してマス・メディアで配信されているニュースの紹介、参考書籍の紹介、授業ウェブサイトの更新情報（授業プリントの掲載、小テストの解答の掲載）、Web 課題の URL の通知等である。

4・4　取り組みの反省

今回の取り組みを終えて、最も印象に残ったのは、学生との相互のやり取りをする状況を構築することが難しかったことである。主なやり取りは、授業スライドを見やすくするための改善要望の受け付けや、試験実施時間や休講日の確認、小テストの解答掲載に関する要望などにとどまった。これは、筆者らの Twitter における魅力的な情報発信スキルが低かったこともさることながら、学生側もこういった取り組みに参加した経験がそれほど多くなく、どのように参加すれば良いのか戸惑いがあったことによるものと考えられる。

村上 [16] や Ross et al.[8] でも指摘されているように、SNS を利用して効果的な授業を行うには、まずは教員が SNS の利用に慣れていることが必要である。今後の課題は、他の SNS 活用事例における質疑の活発化方法に学ぶことや、国内外の有識者や著名人の SNS アカウントを観察して興味や関心を引きつけるノウハウを学ぶこと、有意義な情報発信をしている組織や個人の紹介ができるようになることである。それらに加えて、SNS を有意義に活用する素養を作るために、SNS に過度に依存せずに程良い距離感をもってスマートに付き合うアイデアや、マナーを守った情報発信方法、特定の分野に偏らない有意義な情報の収集・検索方法等を伝えることが必要である。

このような取り組みを通じて、学生からの声にきちんと向き合い、双方向のコミュニケーションを行い、学術的経験に打ち込むことが、苦しいながらも充実感や楽しさがあることを伝え、学生たちが知恵と勇気と善意をもった温和で善良な市民として生涯学びながら生きていくきっかけ作りができたらと考える。

5．おわりに

本論文では、大学における教育目的の SNS 活用に関する文献レビューと、今年度に筆者らが行った授業実施事例の報告を行い、現状把握と今後の課題点を議論した。

文献レビューによって、学生の SNS の利用時間の長さと学業成績との間には負の関係があることが分かった。その一方で、SNS を授業に活用する取り組みを効果的に行うことができれば、授業における学生の孤立感を緩和して学生エンゲージメントを高められうることが分かった。

筆者らの 2015 年度の経験からは、SNS を活用して授業を行うには教員側の魅力的な情報発信スキルや授業のコミュニティの雰囲気作りをいかにするかが重要であることが分かった。さらに効果的な活用方法を探るために、今後も授業内容の改善、SNS を活用する知識や技術の習得に努めたい。

謝辞

本稿の作成にあたり、アンケートに協力いただいた皆様、コメントを頂いた先生方にお礼申し上げます。

参考文献

1) O'Reilly,T. “What is Web 2.0 : Design Patterns and Business Models for the Next Generation of Software,” 2005. http://www.oreilly.com/pub/a/web2/archive/what-is-web-20.html
2) 総務省：情報通信白書平成 23 年版，2011.
3) 総務省：情報通信白書平成 27 年版，2015.
4) 総務省情報通信国際戦略局：社会課題解決のための新たな ICT サービス・技術への人々の意識に関する調査研究－報告書－，2015.
5) HERI “College Freshmen and Online Social Networking

Sites," *Higher Education Research Institute Research Brief*, 2007.
http://www.heri.ucla.edu/PDFs/pubs/briefs/brief-091107-SocialNetworking.pdf

6) Jacobsen,W.C. and R.Forste "The Wired Generation : Academic and Social Outcomes of Electronic Media Use Among University Students," *Cyberpsychology, Behavior, and Social Networking*, Vol.14, No.5, pp.275-280, 2011.

7) Junco,R., G.Heiberger and E.Loken "The Effect of Twitter on College Student Engagement and Grades," *Journal of Computer Assisted Learning*, Vol.27, No.2, pp.119-132, 2011.

8) Ross,H.M., R.Banow and S.Yu "The Use of Twitter in Large Lecture Courses: Do the Students See a Benefit?," *Contemporary Educational Technology*, Vol.6, No.2, pp.126-139, 2015.

9) 村上正行，岩崎千晶：大学における SNS を活用した教育改善の支援，教育メディア研究，Vol.14，No.2，pp.11-16，2008.

10) 入江公啓：SNS による教育・学習支援の試みー教員主導の教育から学習者中心の学習へー，志學館大学人間関係学部研究紀要，Vol.30，No.1，2009.

11) 佐々木康成，笹倉千紗子：学習サポートに SNS を用いたコンピュータリテラシ実習の実践とその評価，日本教育工学会論文誌，Vol.33，No.3，pp.229-237，2010.

12) 佐久本功達，天願健，アラスーン・ピーター，中里収，アリ・ファテヘルアリム，清水則之：高等教育における SNS 活用方法についての検討，名桜大学紀要，Vol.16，pp.29-46，2011.

13) 西出崇：大学教育における SNS（Social Networking Service）の有用性ー立命館大学政策科学部における学部 SNS 運用事例から，政策科学，Vol.19，No.4，2012.

14) 村上正行：ソーシャルメディア導入の授業　twitter 活用の実践事例，教育学術オンライン，No.2463，日本私立大学協会，2011.
http://www.shidaikyo.or.jp/newspaper/online/2463/5_1.html

15) 金西計英，光原弘幸，三好康夫，松浦健二：自学自習における学習意欲の維持への Twitter ボットの活用，日本教育工学会論文誌，Vol.37，Suppl.，pp.69-72，2013.

16) 村上正行：大学教育におけるソーシャルメディア活用のポイント，教育学術オンライン，No.2464，日本私立大学協会，2011.
http://www.shidaikyo.or.jp/newspaper/online/2464/5_1.html

（受理　平成 28 年 3 月 19 日）